

増穂だより

vol.228



芝浦工業大学柏中学高等学校 〒277-0033 千葉県柏市増尾700番地

TEL : 04-7174-3100(代) FAX : 04-7176-1741

URL <http://www.ka.shibaura-it.ac.jp/>

■編集／芝浦工業大学柏中学高等学校 総務部

■発行日／令和4年5月2日 発行

■印刷／株式会社横浜総合写真



Contents

■巻頭（校長）	2P	■PTA 情報 / 後援部情報	4P
■学年情報（中学 / 高校）	3P	■中学 21 期生卒業式 / トピックス	5P

彩り豊かな学校生活をおくるために…

校長 中根 正義

今年の入学式で、私は相田みつをさん（1924－1991）の「そのときの出会いが」という作品を紹介しました。実際の作品を皆さんに見ていただきたいと思い、今回、東京・丸の内にある相田みつを美術館のご厚意により、作品の写真をお借りすることができましたので、掲出させていただきます。

私たちが芝柏に集うのは、いろいろな人との出会いの積み重ねがあって、今、ここにいるということになります。まるでパズルのように、そのパズルの一つが欠けていたとしたら、芝柏にはいなかったのかもしれません。

古代ギリシャの哲学者、アリストテレスは「人間は社会的動物である」と述べたとされています。人間一人ひとりとは個人として存在しているとしても、私たちは他者との関係において存在しているということになります。

だからこそ、みつをは「出会い」の大切さを説きました。一つ一つの出会いを大切に、「いま」を大切に過ごしていきたい。

生徒の皆さんの中には、「失敗しちゃった」と過去のことを引きずって、ずっと悔やんでいる人もいることでしょう。しかし、それはもう過去のこと。過去は過去として、それを糧に、新たな出会いを求めて、「いま」を大切に過ごしてほしいと願ってやみません。

私には、もう一つ、大事にしている詩があります。詩人、童話作家として知られている工藤直子さん（1935－）の「あいたくて」という作品です。

だれかに あいたくて
なにかに あいたくて
生まれてきた――
そんな気がするのだけだ

それが だれなのか なになのか
あえるのは いつなのか――
おつかいの とちゅうで
迷ってしまった子どもみたい
とほうに かれている

それでも 手のなかに
みえないことづけを
にぎりしめているような気がするから
それを手わたさなくちゃ
だから

あいたくて

ある時は家族、また、ある時は生徒の皆さんや学校の先生、職員の方々の顔を思い浮かべることがあります。30年近く前に亡くなった父のことを思い出したり、子どもの頃に可愛がってくれた明治生まれの祖父母のこと、今はどこに住んでいるかも分からない、好きだった友人のことを振り返ることもあります。

その時々の思いや環境の変化に合わせ、感じ方や思い描くこと

が変わること、いろいろな思いがよみがえることが、この作品の魅力なのでしょう。改めて、人の出会いの大切さを思い起こさせてくれるとともに、「明日も頑張らなくちゃ」という気持ちにさせてくれる作品です。

さて、私たちが人と出会い、社会を形成している以上、そこにはコミュニケーション（社会的伝達）が必要になってきます。ある時は言葉によって、ある時は表情によって、また、ある時は文字で伝えることとなります。

近年、大学入試や就職活動で、コミュニケーション力のある人が有利ということがよく言われています。それは、簡単に言うと、自分が伝えたいことをどう伝えているか、ということになります。

その最初のきっかけとなるのは、あいさつではないでしょうか。笑顔ではっきりあいさつしたほうが相手の印象はアップします。文章では丁寧なあいさつから始めたほうが読んでくれますね。そうすると、伝達力ということでは第一関門クリアです。続いて伝えたいことを相手に分かりやすく伝えることが大切になります。

独りよがりでは、相手には伝わりません。日々の生活において、笑顔であいさつし、わかりやすく伝えるにはどうしたらいいかを意識するようにすれば、自然とコミュニケーション能力がついてきます。

私は芝柏に来る前に新聞記者をしていました。記者の仕事は、簡単に言うと次のようになります。取材対象者と会い、打ち解け、その人から話を聞き、それを分かりやすい記事にまとめ、読者に理解してもらい、世の中の真実を知ることの一助にしてもらう。

ですから、最初の関門である挨拶は大切にしました。そして、相手から信頼してもらうために、いろいろな話題についていけるように世の中のことを幅広く勉強してきたつもりです。記事を書くときは、できるだけ分かりやすく伝えられるように工夫してきました。それでも、取材対象者から信頼されず、うまく記事がまとめられないこともありました。

私は今、芝柏の一員として、皆さんに何を伝えられるのか、日々考えています。私は、ほかの先生方のように授業やホームルームで皆さんと接する機会はありません。朝の登校の時や部活動などに顔を出して、ほんの少しでもいいから話ができればいいなあ、と思っています。

その時、その時が真剣勝負。残念なことに、新型コロナウイルスの感染拡大を防ぐためにマスクをしなければならず、皆さんの顔もマスク越しでしか見えませんが、少しでもコミュニケーションを取ることを心がけています。皆さんの笑顔に接することで、私はうれしくなるし、沈んだ顔を見ると心配になります。

工藤直子さんの詩には、「花」という題名がついた、こんな作品もあります。

わたしは
わたしの人生から
出ていくことはできない

ならば ここに
花を植えよう

自分の日々の営みが楽しくなるのも、辛くなるのも、その人次第。ならば、前を向いて彩り豊かなものにしていったほうがいいに決まっているし、家族や友だち、先生との関係も前向きなほうが楽しいに決まっています。

学校裏の増尾城址総合公園の緑が日々濃くなり、さまざまな花々が咲き誇る季節になりました。芝柏の学校生活も、みんなで彩り豊かなものにできたらいいなあ、と思っています。

学年情報

中学1年 学年目標「格物致知」

入学式を終え、始業式・ガイダンス期間を経て授業が始まりました。徒歩圏内の小学校に通っていた時代から、通学方法や生活リズムも変わり、緊張も相まって疲れもたまっていることとは思いますが、元気に学校に通ってくる姿には我々大人も元気をもらいます。さて、中学24期生は建学の精神に基づき、学年目標に「格物致知（かくぶつちち）」を掲げました。「個々人が道理を究め、知的判断力を高める」という意味です。四書五経の1つ、大学にある言葉で、元々は世界が平和であるには国が治まっている、国が治まるには家庭がととのっている、家庭がととのうには個人が成熟している、という文脈で使われています。生徒それぞれが「自律し成熟した個」として成長し、集団として大きな力を発揮してくれることを期待しています。

高校1年 『自主自律』そして、『ありがとう』

『Team 43期』のシバカシでの高校生活がいよいよ始まりました。学年目標は、大学受験をゴールとした高校生活ではなく、高校や大学卒業後の理想の自分を思い描き、夢の実現のために自ら考えて行動してもらいたいという思いから『自主自律』としました。皆さんにはお互いを認め合って生徒達自身が自分達の手で『Team 43期』を盛り上げる、そんな高校生活を過ごしてもらいたいと思います。そして、日頃からお互いに感謝の気持ちを抱くようにと学年便りのタイトルを『ありがとう』と名付けました。保護者の皆様、お子様に前向きな声掛けをしながら3年間サポートさせていただきます。今後とも学年の教育活動へのご理解とご協力を宜しくお願いいたします。最後に、2022年度は『ありがとう』に満ちた43期生の始まりの年となることを願っています。

中学2年 しばかし2年生、一人一人が主役

23期生も芝柏での生活が2年目に突入しました。中学校の中核を担う学年となった自覚を持つとともに、部活動や委員会、そして学校行事で後輩達に先輩として、しっかり背中を見せて欲しいと考えています。もちろん、同級生とも切磋琢磨して、さらなる高みを目指して頑張って欲しいものです。一方、中高6か年を見据えると、大切な土台作りの2年目になります。外部模試の結果も気になるところですが、まずは日々の授業をしっかり理解し、自分の可能性を見出すための基礎を固めて欲しいと考えています。

さて、中学2年生といえば、思春期真っ只中です。体調不良や気持ちの不安定さが起こりやすい時期でもありますので、お子様の体調などご家庭で何か気になることがございましたら、ご連絡頂けたらと思います。今年度もどうぞ宜しくお願い致します。

高校2年 充実した高校生活を！

日頃より保護者の皆様には、ご協力とご支援を賜り、感謝申し上げます。文系理系の新クラスとなり、授業の様子から生徒たちの学習意欲の高まりを感じます。1年次の各クラスの長所が、新クラスにそれぞれ引き継がれ、パワーアップしているように感じます。この1年でさらに成熟したクラスを皆の力で作ってくれることを期待します。今年度は総合探究の時間が1時間増え、週2時間になりました。昨年にWebコンテストや課題研究で学んだことをブラッシュアップさせるとともに、知る喜びや学ぶ楽しさも同時に感じる1年であってほしいと思います。行事や部活動では中心学年になります。まだまだ制約のある中ではありますが、皆の英知を集め新しい発想力で、各々の考えを尊重しながら丁寧に取り組んでくれることを願います。そして、高校生活が少しでも充実したものになるように、私たちもお手伝いします。本年度もよろしくお願いいたします。

中学3年 むすんで・ひらいて

保護者の皆様にはこれまでの二年間に亘り、温かいご協力とご支援を賜り、感謝いたします。中学校最後の一年となります。本年度も宜しく願いいたします。

昨年度は少しずつ行事に参加する中で、お子様たちの「お勉強」とは違った、色々な活躍や表情を見ることができました。成長を感じられました。今年度は、宿願の研修旅行をはじめ、部活動や行事などで一層持ち味を発揮して、思い出を作ってほしいと願っています。

学習面ではいわゆる学力の底上げもさることながら、各人の興味関心の幅と奥行きを広げることが求められます。『探究』が先々の進学でも大きな意味を持ち始めています。

コロナ禍で鬱屈した諸々を払拭して「結び」を迎え、新たな局面へ心を「拓く」一年となりますように。

高校3年 研修旅行を終えて

1泊2日の大阪研修旅行はいかがでしたか。本当は2年次にオーストラリア、あるいは国内3泊4日をなんとか実現したかった。しかしながら、今回の新年度開始直後の1泊2日が物理的に許される、最大限絞り出した結果でした。力及ばず、申し訳ない気持ちです。それでも、この2日間だけを切り取ってみれば、USJ内はもちろんのこと、新幹線でもホテルでも、一瞬一瞬を満面の笑顔や疲れ切った顔で過ごしている様子が、私にとっては最高の思い出となりました。強制的に被写体になることを求めた私に向かって、引きつった？笑顔のピースサイン、どうもありがとう。たった1泊ではありましたが、その分濃密で思い出深い時間になったことを心から願っています。

今回の研修旅行の実施にあたり、保護者の皆様には多大なるご理解とご協力をいただきました。この場を借りて感謝申し上げます。

PTA 情報

2022 年度 P T A 活動について P T A 会長

中学・高校の新入生並びに保護者の皆様、ご入学おめでとうございます。また、在校生の保護者の皆様には日頃より P T A 活動にご理解・ご協力頂き、誠にありがとうございます。今年度も、本校の生徒達が充実した学校生活を送るための一助となりますように、P T A 本部も活動して参りますので、ご理解・ご協力をお願いします。

① P T A 活動について

芝柏 P T A は「学校と家庭との関係を密接にし、地域社会ともに協力して、生徒の正しい成長と学校の発展に質すると共に会員相互の研修親睦を図る」ことを目的として活動をしています。その目的に沿って、学校と連携し、生徒の学校生活を支援する事が活動の主たるものとなります。また、PTA 活動を通じて、学年を越えた保護者同士の交流の機会も得られますので、様々な P T A 活動に参加頂き、学校の雰囲気を感じたりしながら、保護者相互の親睦を深めて頂きたいと思います。

② 幹事会活動について

PTA 活動の中心となるクラス幹事は、本年 4 月に開催しましたクラス保護者会で選出頂きました。

幹事の皆様は、定期的に開催する幹事会の参加時に学校にお越し頂き、日頃の学校や生徒達の様子を身近に垣間見ることができます。また、校長先生からの学校状況の報告を聞く機会を得られます。その他、学校と保護者との橋渡し役をすることもクラス幹事の役目となります。クラス幹事を中心として、各クラスの保護者の皆様、教職員方、そして P T A 本部役員が連携・協力しながら有意義な活動にしていきたいと思います。

また、学年毎に選任する学年代表の皆様は、PTA 役員会にもご参加いただきます。各学年の活動報告などを実施することとなります。

③ 本年度の全体活動について

P T A の定例行事は、①クラス懇親会の開催、②増穂祭（文化祭）への各種出展、③文化講演会の開催準備、④次年度の本部役員を推薦する次期役員

選考委員会⑤私学振興大会への参加となります。昨年、一昨年度と、PTA 行事のほとんどは、活動できませんでしたが、本年度は、現時点においては、通常年度の活動計画とします。

④ 学年幹事会活動について

卒業年度の学年幹事会活動として、中学 3 年の「巣立ちの会」、高校 3 年「卒業を祝う会」を例年、学年幹事会で決めた内容で開催をしています。これらの企画・準備・運営は当該学年のクラス幹事の皆様を中心に行って頂きます。これらの活動も、昨年度も限定した開催ですので、学年団の先生と協議の上開催をお願いします。

⑤ その他の P T A 活動について

保護者全員を対象に任意参加頂いている活動として、以下の 2 つの取り組みがあります。

(1) 「仕事塾」

生徒のキャリア教育の一環として学校と連携し年 2 回開催しています。働くことの楽しさや経験をお話し頂き、進路選択の一助となることを目的としています。2020 年度よりオンライン開催をスタートしていますので、海外や遠方の保護者も参加可能です。生徒の身近な人生の先輩として、元気な大人の様々な仕事を通じた楽しさなどをお話し頂ければ幸いです。

(2) 「花壇整備活動」

学校構内の美化活動としての月 2 回程度・土曜日の午前中に活動していますので都合の良い日に参加頂けます。花壇やプランターの整備などの活動を通じて学年を超えた保護者間の交流の場にもなっています。

本年 5 月開催の PTA 総会を以て、本部役員が新たに選任されます。新体制においても、引き続き P T A 活動へのご理解・ご協力をお願い致します。



後援部情報

P T A 後援部活動について P T A 後援部部長

新年度を迎え、この度ご入学された高校生 332 名、中学生 201 名の皆さん、並びに保護者の皆様、ご入学おめでとうございます。

新学年に進級された皆さんは、新しい生活に心弾ませていることでしょう。新型コロナウイルスの影響を受ける中での学校生活は希望と不安が混在する状況ではありますが、そのような中でも芝柏生は協力し合い学校生活を充実させてくれることと思います。

後援部は、保護者の皆様からお預かりしている P T A 会費の一部を生徒や教職員の教育環境に役に立つ様にどのような支援をするかを検討し、実行していく役割を担っております。施設・設備並びに教育用備品に関して、中長期的視点を持って支援活動を行っております。

また、毎年秋に行われる増穂祭では後援部カフェを開催しております。この 2 年間は新型コロナウイルスの影響により後援部カフェの開催が出来ませんでした。本年度は増穂祭が開催予定になり、久しぶりに増穂祭の憩いの場である後援部カフェを開催したいと思っております。

昨年度の実績は、学校への支援として化学実験室システム戸棚、iPad ホルダー&三脚、小体育館のスポットクーラーなど、また、部活動への支援として吹奏楽部楽器ケース、弓道場の安全板、中高野球部のブルペン照明施設などの支援を行って参りました。現在検討中の支援としましては、ピロティの塗装、災害緊急時の発電機器もしくは設備の検討があります。それ以外は、具体的な支援案件が決まっておりませんが、随時、学校内で老朽化した備品・設備や新しく必要と思われるものの支援の検討を行い、生徒の皆さんが、快適な環境で勉強や部活動・グループ活動等を活発に行って頂けるよう、また、先生方にも良い環境になり、教育指導し易くなったと実感して頂けるように活動して参ります。

皆様のご理解とご協力を頂きたく、よろしくお願い申し上げます。

■ 中学校 21 期生 卒業式 ■



在校生代表の言葉

中学 21 期の皆様、ご卒業おめでとうございます。在校生を代表して、心よりお祝い申し上げます。

学校生活の中でも先輩方は様々な場面で私たちを助けてくださいました。先輩方が二年生になり初めての後輩ができた頃、新型コロナウイルスが猛威をふるいはじめました。私達の学年はコロナの影響もあり部活動や委員会などに参加できるようになったのが少し遅かったのですが、そんな中でもいつも周りを見て困っている私たちを助けてくださいました。先輩方が最高学年の三年生になると、部活動では先頭に立って私達を導いてくださり、運動会をはじめとする行事では、率先して盛りあげてくださいました。そんな一つ一つの出来事が今では大切な思い出となっています。

今、私たちの社会は、コロナウイルスの影響で「ニューノーマル」と呼ばれる機会が多くなりました。世の中の流れが一変し、今までの「当たり前」が当たり前ではなくなりました。しかし、先輩方なら、これからも変化していく社会に物怖じすることなく、柔軟に対応し、前に向かって突き進んでいけることでしょう。

先輩方が部活動や委員会などでリーダーとして引っ張り、お互いに支え合って協力してきたように、これから新しい学年を迎える私達も先輩の精神を私達後輩も受け継いでいけるよう頑張ります。



卒業生代表の言葉

コロナ禍にもかかわらず、盛大な卒業式を挙行していただき、ありがとうございます。三年前の四月、お互いのこともわからず、友達ができるか不安と緊張でいっぱいでした。最初は静かな教室でしたが日が進むにつれて、段々と賑やかになっていきました。しかし、そんな楽しい生活は、新型コロナウイルスの流行によって一変しました。毎日友達と顔を合わせること、楽しく部活動に参加することができなくなり、今までの当たり前が、当たり前でなくなりました。みんなが楽しみにしていたニュージーランド研修も中止となり、私たちのモチベーションもどん底でした。しかし、学校の行事は規模の縮小はありましたが、実施されることになりました。各々が各行事にエネルギーを注いだことで、より楽しく充実したものになったと思います。そして先生方は私たちのために、県内での研修として三年生の二月に鴨川シーワールドでの日帰り研修を計画してくださいました。先生方には感謝しかありません。中学校生活の三年間は決して普通の日々ではありませんでしたが、沢山のかけがえない思い出と、仲間を作ることができました。

これからの人生、厳しいことや乗り越えないといけないことも多くあると思います。しかし、成長した私たちならどんなことも目標をもって地道に取り組めば、必ず突破できると信じています。困難にもめげずに立ち向かえるよう、これからも成長していきたいです。

Topics

山本喜一先生 日本化学会より表彰

この度、化学科の山本先生が日本化学会第 39 回化学教育有功賞を受賞されました。様々な実験を開発し、その指導法を書籍やホームページ、研修会で紹介することで、全国の化学教員の指導力向上に大きな影響を与えておられます。本校に赴任されてからも化学を深く探究する心を持った人材育成に力を注がれています。研究テーマの設定、進め方、実験方法、結果データの解析に至るまで丁寧にアドバイスをを行い、生徒が興味関心を持ちながら研究を継続できるように指導され、その成果として科学部の生徒が日本代表として 2 回、Intel ISEF に出場するなど、毎年のように生徒の研究発表が評価されています。

以下、山本先生の受賞コメントです。「日本化学会から教育有功賞をいただき、ありがとうございます。私は理科はできるだけ実物から学んだ方が良くと考え、生徒の皆さんが自身の手で実験できる機会を化学の授業に数多く取り入れました。そして、教材研究や実験開発の経験を発展させて、科学部の研究や課題研究を援助してきました。そのような取り組みを評価していただいたものと思っております。今、地球規模で温暖化の影響が重苦しくのしかかっています。大国による侵略も行われています。どうか学んだことを、平和で一人一人が心豊かに暮らせる世界を作るために生かしてください。」

【日本化学会HP】
<https://www.chemistry.or.jp/news/information/2021-14.html>

